NIE実践報告

1．タイトル：新聞で学び、新聞で表現

2．学校名

新潟県新潟市立東新潟中学校

3．実践者名（代表者名）

杉田　隆一

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　37人

6．単元（本時の学習課題）名

記事の書き手の意図を探る

7．目標（狙い）

複数紙の記事を比較し、使われている材料や表現の違いを分析する活動を通して、それぞれの記者の意図を考える。

8．評価の視点

記事の材料、表現などを結びつけて書き手の意図を分析できる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「メディア・リテラシー」(教科書教材:三省堂)　全5時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)新聞の比較読みを通して、教科書教材における筆者の見解を検証しながら、メディアを分析する演習を行う。(2時間)
・教科書教材でメディアが伝える情報の特徴について学習し、実際の記事を使って検証する。
・よりよい見出し、キャプションの要件を考える。
(2)記事に使われる材料や展開・表現などの効果と記者の意図を考える。(2時間)
・「最も販売部数を伸ばす記事を選ぶ」をテーマに、記事の材料、展開、表現の効果を批評する。
・使われている材料、表現から書き手の意図を考える。
(3)教科書教材における筆者の主張を新聞記事の形でまとめる。(1時間)
(留意点)
・比較分析に使う記事は、材料、表現などにできるだけ明らかな違いが見られるものを選択する。
・比較分析における視点をワークシートで提示する。
・グループ活動の場面を設定し、意見交流を行わせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

学習を通じて、ほとんどの生徒が新聞記者のスタンスの違いを実感できた。教材の主張を記事の形にまとめる際、写真や資料の効果を考えて精選することができるようになった。

12．成果と課題

学習後、新聞の読み方が変わったと言ってきた生徒がいた。このあとに学習した説明文教材では、筆者の主張を分析する際に、使われている写真や資料の意味(意図)も自然と考える生徒が増えた。
新聞をより多くの生徒が気軽に手にできる環境の整備が今後の課題である。教師側にとっては、教材化できる記事の選択に労力を要することが問題点である。その解決のために、教材化できる記事の整理とデータベース化を行い、いつでも気軽に実践に取り組めるシステムの整備を進めたい。